２－11	思考力・判断力・表現力を問う記述式評価問題 （キラリチャレンジテスト）の活用

１　実施方法

○　週１回業間の15分間で実施。または、学校行事後などの事後指導の時間に実施。

○　採点・評価は、学力向上推進主任が行う。学級担任と連携を取り合い、個別指導を行う。

○　ワークシートは個別のファイルに蓄積し、評価等に役立てる。

２　各学年の目標

○　低学年（１・２年）　自分の思いや考えを表現する。

○　中学年（３・４年）　条件に従って、自分の思いや考えを表現する。

○　高学年（５・６年）　条件に従って、自分の思いや考えを豊かに表現する。

３　評価問題の一例

○　「きのうのよるごはん」というテーマで作文をかきましょう。

○　「クラスのしょうかい」というテーマで新聞の記事をかきましょう。

○　「あさごはんは、ごはんがいいか、パンがいいか。」というテーマで作文をかきましょう。

４　採点方法と評価

①　条件に沿って書かれていること

②　文字数が適当であること

③　内容が充実していること

※　得点に換算し、個人別にデータを残していくことで自己評価に役立てる。

資料１　５月に実施したワークシート

５　成果

毎回アドバイスを記入することで、次回の作文の際、そのアドバイスを参考にしながら、より条件に沿った文章を書こうとする児童が増えてきた。また、週に１回ずつ実践し、継続的な指導を行うことで、書くことへの抵抗感も減り、決められた時間の中で書けるようにもなってきた。さらに、題や書き出しの工夫、構成の仕方などを条件の中に組み込んでいくことで、より豊かな文章表現力が身に付いてきたようにも思う。